

報告品目・新キット製品が薬価収載されましたのでお知らせいたします。

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
1	117	内用薬	レキサルティOD錠0.5mg	0.5mg 1錠	136.80	大塚製薬	プレクスピブラゾール	統合失調症	通常、成人にはプレクスピブラゾールとして1日1回1mg から投与を開始した後、4日以上の間隔をあけて増量し、1日1回2mgを経口投与する。	再審査期間中の規格追加/ 再審査期間中の剤型追加
			レキサルティOD錠1mg	1mg1錠	260.60					
			レキサルティOD錠2mg	2mg1錠	496.50					
2	235	内用薬	モビコール配合内用剤HD	13.7046 g1包	139.80	EA ファーマ	マクロゴール4000/塩化ナトリウム/炭酸水素ナトリウム/塩化カリウム	慢性便秘症（器質的疾患による便秘を除く）	本剤は、水で溶解して経口投与する。 通常、2歳以上7歳未満の幼児には初回用量としてモビコール配合内用剤LD（以後LD）1包を1日1回経口投与する。以降、症状に応じて適宜増減し、1日1～3回経口投与、最大投与量は1日量としてLD4包又はモビコール配合内用剤HD（以後HD）2包まで（1回量としてLD2包又はHD1包まで）とする。ただし、増量は2日以上の間隔をあけて行い、増量幅は1日量としてLD1包までとする。 通常、7歳以上12歳未満の小児には初回用量としてLD2包又はHD1包を1日1回経口投与する。以降、症状に応じて適宜増減し、1日1～3回経口投与、最大投与量は1日量としてLD4包又はHD2包まで（1回量としてLD2包又はHD1包まで）とする。ただし、増量は2日以上の間隔をあけて行い、増量幅は1日量としてLD1包までとする。 通常、成人及び12歳以上の小児には初回用量としてLD2包又はHD1包を1日1回経口投与する。以降、症状に応じて適宜増減し、1日1～3回経口投与、最大投与量は1日量としてLD6包又はHD3包まで（1回量としてLD4包又はHD2包まで）とする。ただし、増量は2日以上の間隔をあけて行い、増量幅は1日量としてLD2包又はHD1包までとする。	再審査期間中の規格追加
3	449	内用薬	ピラノアOD錠20mg	20mg 1錠	66.80	大鵬薬品工業	ピラスチン	アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒	通常、成人にはピラスチンとして1回20mgを1日1回空腹時に経口投与する。	再審査期間中の剤型追加
4	131	注射薬	ラニビズマブBS硝子体内注射用キット「センジュ」	0.5mg0.05mL 1筒	85,535	千寿製薬	ラニビズマブ（遺伝子組換え）【ラニビズマブ後続1】	1. 中心高下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 2. 病的近視における脈絡膜新生血管	○中心高下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 ラニビズマブ（遺伝子組換え）【ラニビズマブ後続1】として0.5mg（0.05mL）を1ヵ月毎に連続3ヵ月間（導入期）硝子体内投与する。その後の維持期においては、症状により投与間隔を適宜調節するが、1ヵ月以上の間隔をあけること。 ○病的近視における脈絡膜新生血管 ラニビズマブ（遺伝子組換え）【ラニビズマブ後続1】として1回あたり0.5mg（0.05mL）を硝子体内投与する。投与間隔は、1ヵ月以上あけること。	ハイオ後続品
5	399	注射薬	スキリージ皮下注150mgシリンジ1mL	150mg1 mL1筒	474,616	アヅヴィ	リサンキズマブ（遺伝子組換え）	既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症	通常、成人にはリサンキズマブ（遺伝子組換え）として、1回150mgを初回、4週後、以降12週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて1回75mgを投与することができる。	再審査期間中の剤型追加
			スキリージ皮下注150mgペン1mL	150mg1 mL 1キット	474,761					

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
6	399	注射薬	アダリムマブ BS皮下注 20mgシリン ジ0.2mL 「MA」	20mg0. 2mL1筒	20,604	持田製薬	アダリムマブ (遺伝子組換 え) [アダリ ムマブ後続3]	○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・多関節に活動性を有する若年性特 発性関節炎	○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 通常、アダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として、体重15kg以上30kg未 満の場合は20mgを、体重30kg以上の場合は40mgを2週に1回、皮下注射する。	バイオ後続品
			アダリムマブ BS皮下注 40mgシリン ジ0.4mL 「MA」	40mg0. 4mL1筒	39,913		○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・多関節に活動性を有する若年性特 発性関節炎 ○関節リウマチ (関節の構造的損傷 の防止を含む) ○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱 性乾癬 ・強直性脊椎炎 ・腸管型ペーチェット病 ○中等症又は重症の活動期にあるク ロウン病の寛解導入及び維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限 る) ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の 治療 (既存治療で効果不十分な場 合に限る)	○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 通常、アダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として、体重15kg以上30kg未 満の場合は20mgを、体重30kg以上の場合は40mgを2週に1回、皮下注射する。 ○関節リウマチ、強直性脊椎炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として40mgを2週に 1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に80mgを 皮下注射し、以後2週に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合には1回80mgま で増量できる。 ○腸管型ペーチェット病、潰瘍性大腸炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。 ○クローン病 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。なお、効果が減弱した場合には1回80mgに増量できる。		
			アダリムマブ BS皮下注 80mgシリン ジ0.8mL 「MA」	80mg0. 8mL1筒	77,392		○関節リウマチ (関節の構造的損傷 の防止を含む) ○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱 性乾癬 ・強直性脊椎炎 ・腸管型ペーチェット病 ○中等症又は重症の活動期にあるク ロウン病の寛解導入及び維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限 る) ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の 治療 (既存治療で効果不十分な場 合に限る)	○関節リウマチ、強直性脊椎炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として40mgを2週に 1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に80mgを 皮下注射し、以後2週に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合には1回80mgま で増量できる。 ○腸管型ペーチェット病、潰瘍性大腸炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。 ○クローン病 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。なお、効果が減弱した場合には1回80mgに増量できる。		
			アダリムマブ BS皮下注 40mgペン 0.4mL「MA」	40mg0. 4mL 1キット	40,056		○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・多関節に活動性を有する若年性特 発性関節炎 ○関節リウマチ (関節の構造的損傷 の防止を含む) ○既存治療で効果不十分な下記疾患 ・尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱 性乾癬 ・強直性脊椎炎 ・腸管型ペーチェット病 ○中等症又は重症の活動期にあるク ロウン病の寛解導入及び維持療法 (既存治療で効果不十分な場合に限 る) ○中等症又は重症の潰瘍性大腸炎の 治療 (既存治療で効果不十分な場 合に限る)	○多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎 通常、アダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として、体重15kg以上30kg未 満の場合は20mgを、体重30kg以上の場合は40mgを2週に1回、皮下注射する。 ○関節リウマチ、強直性脊椎炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として40mgを2週に 1回、皮下注射する。なお、効果不十分な場合、1回80mgまで増量できる。 ○尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に80mgを 皮下注射し、以後2週に1回、40mgを皮下注射する。なお、効果不十分な場合には1回80mgま で増量できる。 ○腸管型ペーチェット病、潰瘍性大腸炎 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。 ○クローン病 通常、成人にはアダリムマブ (遺伝子組換え) [アダリムマブ後続3] として初回に160mg を、初回投与2週間後に80mgを皮下注射する。初回投与4週間後以降は、40mgを2週に1回、 皮下注射する。なお、効果が減弱した場合には1回80mgに増量できる。		

番号	薬効分類	区分	商品名	規格単位	薬価(円)	製造販売	成分名	効能・効果	用法・用量	備考
7	429	注射薬	ヤーボイ点滴 静注液20mg	20mg 4 mL1瓶	200,703	ブリスト ル・マイ ヤーズ スクイブ	イビリムマブ (遺伝子組換 え)	(効能・効果) ○根治切除不能な悪性黒色腫 ○根治切除不能又は転移性の腎細胞 癌 ○がん化学療法後に増悪した治癒切 除不能な進行・再発の高頻度マイク ロサテライト不安定性 (MSI-High) を有する結腸・直腸癌 ○切除不能な進行・再発の非小細胞 肺癌 ○切除不能な進行・再発の悪性胸膜 中皮腫	○根治切除不能な悪性黒色腫 通常、成人にはイビリムマブ (遺伝子組換え) として1回3mg/kg (体重) を3週間間隔で4回点 滴静注する。 ○根治切除不能又は転移性の腎細胞癌、がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発 のMSI-Highを有する結腸・直腸癌 ニボルマブ (遺伝子組換え) との併用において、通常、成人にはイビリムマブ (遺伝子組換 え) として1回1mg/kg (体重) を3週間間隔で4回点滴静注する。 ○切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、通常、成人にはイビリムマブ (遺伝子組換え) として1 回1mg/kg (体重) を6週間間隔で点滴静注する。 ○切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫 ニボルマブ (遺伝子組換え) との併用において、通常、成人にはイビリムマブ (遺伝子組換 え) として1回1mg/kg (体重) を6週間間隔で点滴静注する。	再審査期間中 の規格追加
8	611	注射薬	ステルイズ水 性懸濁筋注60 万単位シリン ジ	60万単 位1筒	3,207	ファイ ザー	ベンジルペニ シリンベンザ チン水和物	<適応菌種> 梅毒トレポネーマ <適応症> 梅毒 (神経梅毒を除く)	成人及び13歳以上の小児： <早期梅毒> 通常、ベンジルペニシリンとして240万単位を単回、筋肉内に注射する。 <後期梅毒> 通常、ベンジルペニシリンとして1回240万単位を週に1回、計3回、筋肉内に注射する。 2歳以上13歳未満の小児： <早期梅毒> 通常、ベンジルペニシリンとして240万単位を単回、筋肉内に注射する。なお、年齢、体重によ り適宜減量することができる。 <後期梅毒> 通常、ベンジルペニシリンとして1回240万単位を週に1回、計3回、筋肉内に注射する。なお、 年齢、体重により適宜減量することができる。 2歳未満の小児： <早期先天梅毒、早期梅毒> 通常、ベンジルペニシリンとして体重1kgあたり5万単位を単回、筋肉内に注射する。	新投与経路医 薬品
9	639	注射薬	コルトミリス HI点滴静注 300mg/3mL	300mg3 mL1瓶	699,570	アレクシ オン ファーマ	ラプリズマブ (遺伝子組換 え)	○発作性夜間ヘモグロビン尿症 ○非典型型溶血性尿毒症症候群	<発作性夜間ヘモグロビン尿症> 通常、成人には、ラプリズマブ (遺伝子組換え) として、患者の体重を考慮し、1回2,400~ 3,000mgを開始用量とし、初回投与2週後に1回3,000~3,600mg、以降8週ごとに1回3,000~ 3,600mgを点滴静注する。 <非典型型溶血性尿毒症症候群> 通常、ラプリズマブ (遺伝子組換え) として、患者の体重を考慮し、1回600~3,000mgを開始 用量とし、初回投与2週後に1回300~3,600mg、以降4週又は8週ごとに1回300~3,600mgを 点滴静注する。	再審査期間中 の剤型追加
			コルトミリス HI点滴静注 1100mg/11 mL	1100mg 11mL 1瓶	2,565,090					

- ・内容についての詳細な情報又は正確な情報は、添付文書等をご参照下さい。
- ・薬価に関する情報は「官報」でもご確認下さい。
- ・承認に関する情報は「医薬品医療機器情報提供ホームページ」の新薬の承認に関する情報もご参照下さい。
- ・医薬品薬価マスターに関する情報は「診療報酬情報提供サービス」をご参照下さい。
- ・医薬品コードに関する情報は「薬価基準収載医薬品コード表(MEDIS-DC提供)」をご参照下さい。